

2020早稲田大学校友会 東京三多摩支部

幹事長・事務局長連絡会議 議事要旨

日 時 2021年2月20日(土) 14:00~16:48

会 場 連絡会議：Zoomにて会議

連絡会議次第

1. 支部長挨拶

高橋支部長より1年間のお礼、アンケート、23区稲門会との会議等について報告があった。

2. 出席者紹介

3. ご来賓挨拶 早稲田大学校友会常任幹事組織委員長 大島 正敬 様

大島組織委員長より、コロナ禍での大学校友会の状況報告、校友会からの支援費の件、新奨学金等の説明があった。

4. 議事

(1) 2020年度 東京三多摩支部活動報告

活動経過

(2) 校友会からの依頼事項について

(3) 2020 稲門祭副本部長・運営委員推薦、各稲門会実行委員選出について

(4) 2021年度各稲門会の総会日程について

(5) 2020年度版東京三多摩支部稲門会役員名簿について

(6) 2020 三多摩アンケートについて

大内副支部長より、資料に基づき、アンケートから見た三多摩支部の現状と課題等の報告があった。

(7) 校友会本部から見た東京三多摩支部の位置づけと今後の課題

大島組織委員長より、資料に基づき、校友会本部組織の現状と三多摩支部への検討依頼点について説明があった。

引き続き、(6)(7)の件につき、各会から以下のような意見が出された、

昭島：昨年の主幹も務めたが、結論を先走りしたようでまとまらなかった。しばらく時間をかけて検討した方が良い。

あきる野：複数年制については2年が良い。務長・幹事長会議には複数名出席が望ましい。

3ブロック制については有効なあり方を再検討する必要があると思います。

稲城：現在の組織自体を変更する必要があるのでは。各会が理解できていないと思う。

青梅：4年という期間は長い。2年なら可能かもしれない。西ブロックは小さい会が多いので運営は困難であり格差を感じる。2年間ということから考えたらどうか。

国立：西ブロックが少ないので、ブロック分けの見直しが必要では。

小金井：大学校友会の組織に合わせた方が良い。それに合わせて運営する前提で考えた方が良い。

国分寺：2年かとも思うが、まだ熟していないと思う。我が事と考えていないので、会に持ち帰って、検討したいが、昭和57年卒とかの若手はいないので、ハードルは高いと思う。

小平：1年は短いが4年は長いと思う。2年ぐらいが良いのでは。

狛江：1年は短いが4年は長いと思うので、2年ぐらいが良い。しかし、昭和57年卒の会員はいない。

立川：4年は長いので2年ぐらいかと思う。立川には若手の会があるが、現在、コロナの関係でストップしている。

調布：昨年の青梅さんの前年に主幹を務めたが、だいぶ負荷がかかった。前年度と同じように運営するだけで精いっぱいだった。2年ぐらいかなあと思う。

西東京：当会での結論は出ていないが、2年ぐらいかと思う。主幹の入れ替えなども考えても良いと思うが4年は難しいと思う。23区のように2年から始めたらどうか。昭和57年卒の該当者は1名のみである。平成の会も作ってあるが、現職ゆえ難しい。

八王子：支部長の複数年、ブロック会議、微妙な感じである。組織委員会の意向は理解できるが、三多摩はゆるやかに連合した会だと思う。上から下への会にしたいのかもしれないが、横に広げる余裕はない。校友会本部は違う形にしてほしい。他の会までの交通の便も悪いし、時間をかけて検討してほしい。どこか1か所に事務局でもあれば良いと思うが、お金の問題もあるだろう。

羽村：結論は出ていない。複数年が良いとは思いますが、当会は少人数ゆえ、4年とかの役員は派遣できない。

東大和：現役で仕事をしている、昭和61年卒などを探するのは厳しい。自営業か社長でない
と時間をとれる人はいないのでは。

日野：複数年制は賛成ではない。大学の中で存在を反映させるには1年では難しいが、支部として主幹のバックアップを議論しないといけないだろう。本部に出ている人に任せっきりになる。このまま1年ではダメ。変わらないだろう。議論を進めるべきである。

府中：複数年制は2年かと思う。南は遠いので、ブロック分けの課題がある。各会が独立して動いている。現在、ブロックは役立っていない。あるべき論ではダメ。2年ならありか。

三鷹：支部長の複数年を2年とか4年をやる人はいない。5年後も無理である。若い会員がいるが、市議員なので、外部へは行けない。参加できない会もあることを理解してほしい。

武蔵野：180名の会員がいる。若い会員もいるが高齢化が進んでいる。複数年は負担が大きい。自分の会の運営だけで精いっぱいである。

東久留米：ブロックで対応しないと2年とか4年は無理である。他県とは生まれも育ちも違う。ブロック会議を行うことを申し送りたい。

清瀬：ブロックをうまく使い運営できれば良い。団体でやれば運営できるのでは。ブロックの件の会議を続けてほしい。

清瀬：前向きに考えたいが会で討議していない。1年はあつという間なので、会の格差があるが検討は必要。

東村山：複数年については前向きであるが、誰が受けるか。人材をどうやって探すか。良いシステムはあるか。プロジェクトの中で育ち、発掘する。グループで推進しブロックの中で運動体ができれば良い。

西東京：今は2年が精いっぱいだろう。4年にするには体制を変えないとダメ。

東村山：ブロックでは何をやるか、三多摩支部は何を目的にするかを考えなければならない。

以上のような意見等が出された後、高橋支部長より次の会長会にブロック会議を行うこ

とを提案したいとの発言があったが、次の主幹である八王子からは、ブロック内の稲門会間でも交流はほとんどなく、徒に会議数が増えるだけであって、本当にブロック会議が必要なのかとの意見が出され、全員の賛成は得られなかった。しかし、大学校友会からの検討事項も理解できるし、今回のアンケートで明らかになった三多摩支部の課題も十分検討し、少し時間をかけて理解を深めていきたいとのことであった。

最後に、次期主幹稲門会である加瀬明彦八王子稲門会会長から、副支部長、事務局長の紹介と日程等の案内の後、内田副支部長の閉会の挨拶で終了した。

以上